

令和7年度

決算報告

図財政課 内線216・219

決算概要

●一般会計歳入

令和7年度の歳入決算額は、139億136万円で、前年度と比べ7億6,990万円の増加となりました。

国税収入の増加などによる普通交付税の増に伴い地方交付税が増加したことや、防災行政無線の更新や三沢川樋門整備のための町債の増加などが主な要因として挙げられます。

●一般会計歳出

令和7年度の歳出決算額は、131億2,856万円で、前年度と比べ6億3,375万円の増加となりました。

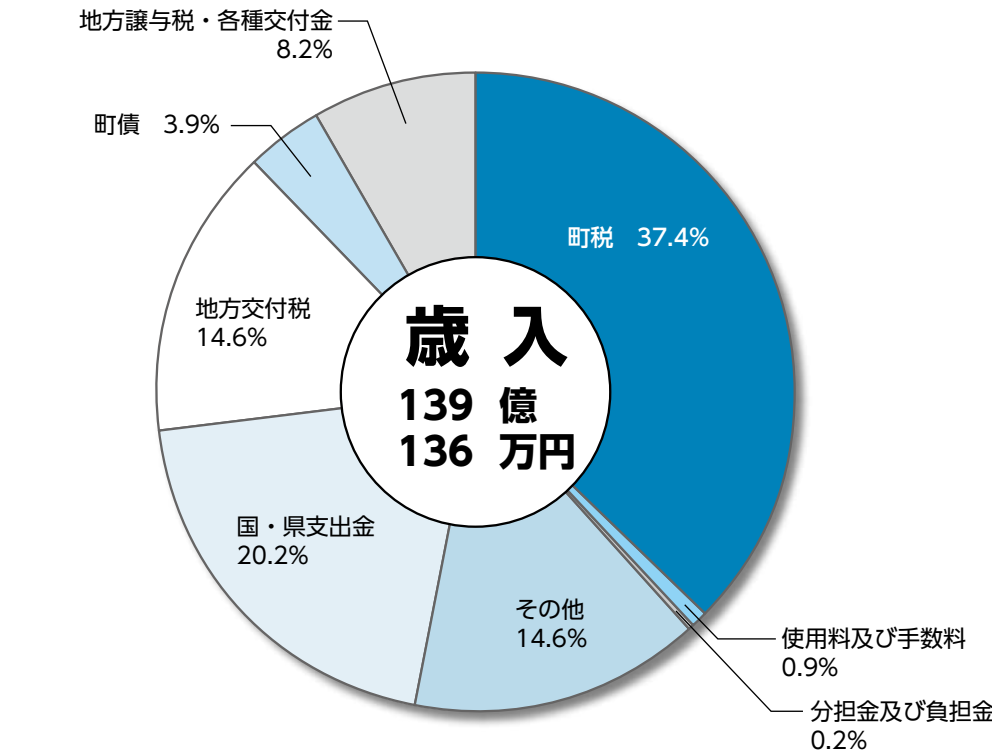
主な要因として、地域手当の引上げなどによる人件費の増、防災行政無線更新事業や三沢川樋門整備事業などの大規模事業実施による普通建設事業費などの増が挙げられます。

●一般会計収支の状況等

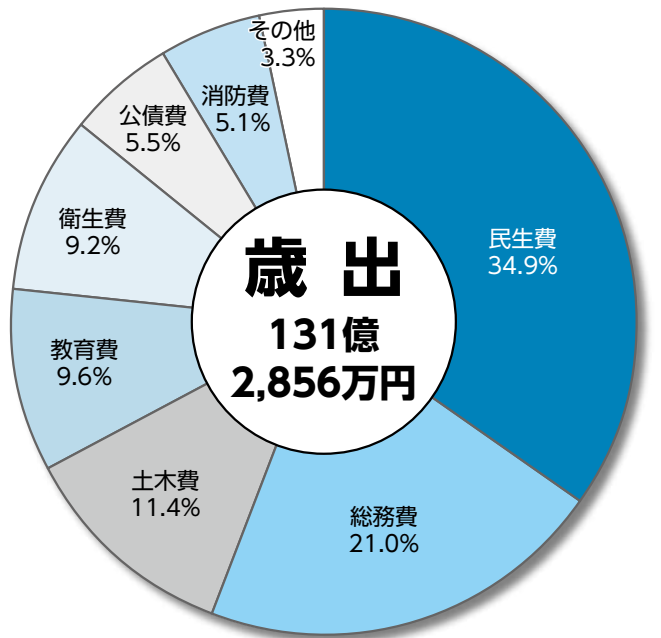
歳入と歳出の差引残高から、翌年度へ繰り越すべき財源922万円を除いた令和7年度の実質的な収支は、7億6,358万円の黒字となりました。また、借金（町債）の現在高は70億2,294万円となり、令和6年度末残高と比較して約1億5千万円減少させる結果となっています。

●財政指標等

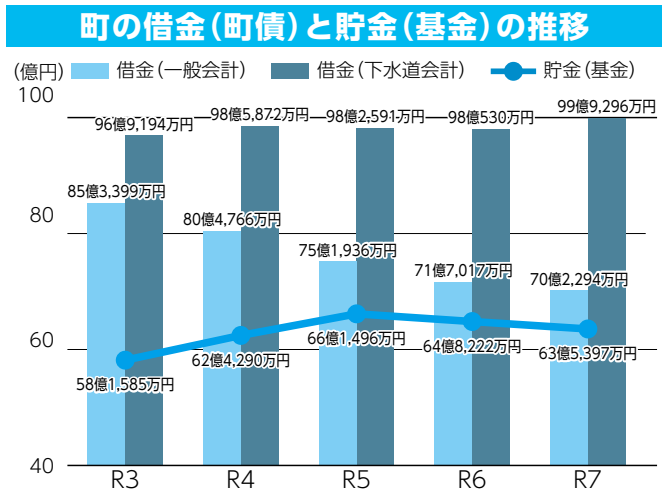
町の健全化判断比率等の各指標の令和7年度の値は、いずれも国が定める基準を下回っており、財政の健全性を示しています。今後も引き続き安定した財政運営を行ってまいります。



歳入	
【自主的に確保することができる財源】	
町税	52億450万円
使用料及び手数料	1億2,869万円
分担金及び負担金	2,896万円
その他	20億2,621万円
諸収入、繰入金、繰越金など	
【国や県などから交付される財源】	
国・県支出金	27億9,755万円
地方交付税	20億3,318万円
町債	5億4,510万円
地方譲与税・各種交付金	11億3,717万円



歳出	
民生費	45億8,608万円
子育て支援や障がい者、高齢者の福祉など	
公債費	7億1,590万円
借りたお金の返済	
総務費	27億6,088万円
住民登録や交通安全、防犯、防災対策など	
消防費	6億7,402万円
消防活動や救急活動など	
土木費	14億9,252万円
道路や河川、公園の整備など	
その他	4億3,605万円
商工費……………1億6,595万円	
議会費……………1億4,004万円	
農林水産業費……………1億1,175万円	
労働費……………1,082万円	
その他(災害復旧費など)………749万円	
教育費	12億6,150万円
学校や生涯学習など	
衛生費	12億161万円
予防接種やごみ処理など	



特別会計・企業会計

特別会計名		歳入決算額	歳出決算額	歳出決算額前年度比較
国民健康保険事業		30億9,727万円	29億7,673万円	↓
後期高齢者医療		13億1,168万円	12億8,374万円	↑
介護保険事業		35億1,841万円	34億 949万円	↑

※特別会計とは…特定の収入を財源として行われるもので、一般会計とは区分して経理する会計

企業会計名		収入決算額	支出決算額	支出決算額前年度比較
下水道事業	収益的	10億4,193万円	9億7,813万円	↑
	資本的	11億1,396万円	14億9,785万円	↑

※企業会計とは…事業ごとに収益をあげて行われるもので、一般会計から独立して経理する会計

※資本的収支の不足分は、留保資金などで補てんしています。

健全化判断比率・資金不足比率				
財政健全化指標		大磯町	早期健全化基準	財政再生基準
健全化判断比率	実質赤字比率①	※赤字額ではないため、数字は表示されません。	13.74%	20%
	連結実質赤字比率②	※赤字額ではないため、数字は表示されません。	18.74%	30%
	実質公債費比率③	3.9%	25%	35%
	将来負担比率④	8.2%	350%	
資金不足比率⑤		※不足額が発生しないため、数字は表示されません。	20%	

各比率の説明
①実質赤字比率：一般会計の赤字の大きさを示す。
②連結実質赤字比率：町の全ての会計の赤字の大きさを示す。
③実質公債費比率：借入金の当該年度の返済額の大きさ（資金繰りの程度）を示す。
④将来負担比率：今後支払わなければならないものの大きさを示す。
⑤資金不足比率：各公営企業（町では下水道事業）の事業規模に対する資金の不足額を示す。